

事業名：被保険者の働き方に対応した健診事業

主幹健保名：新潟県農業団体健康保険組合	参加健保総数：12組合	うち加入者1万人未満の健保の割合：83%
対象とする業種・業態・職種	長期出張（長距離運転手）、単身赴任、海外勤務者	

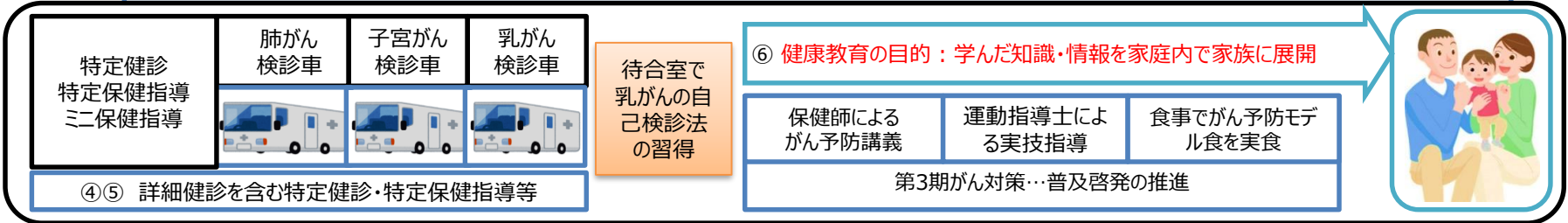
1. 業種等に共通する健康課題と本事業の目的

- 保健事業実施に伴い、被扶養者が参加を希望しない理由を健保連新潟連合会の共同設置保健師がアンケート調査実施したところ、以下の実態が見えた。
- 長期出張（長距離ドライバー等）、単身赴任、海外勤務等、長期に家庭から離脱する被保険者（夫）の働き方により、被扶養者（家庭の主婦）は、自らの健康行動を後回しにしてしまう。また、核家族にとっては「子供を預ける所がない」「特定健診とがん検診の日程・会場がバラバラで、受診したくてもできない」健診（検診）難民が多数存在する。
 - これらのことから、
 - 自組合の加入者の健康管理を考え、被扶養者には被保険者不在の家庭内健康管理のキーパーソンになり健康行動を自ら率先してもらうため、一日で総合的に健診（検診）等が受けられるよう基本的なインフラを整えることを目指す。また、がんを含めた生活習慣病予防の健康教育を受けてもらうことにより、セルフケアと家族の健康増進を実践する力をつけてもらい被保険者のヘルスリテラシーの向上につなげる。
 - 専門職がいない組合及び財政的に厳しい組合の顕在・潜在化する保健事業のニーズに対し、共同設置保健師を活用することにより被保険者、被扶養者の健康保持増進を図る。

2. 事業内容

- ① 検討会を開催し、共同設置保健師が中心となり企画内容・健診（検診）場所等の選定（被扶養者が集まりやすい場所を設定）を行い、説明会にて参加組合に周知
→ 各組合から対象者に健診・検診の案内（被保険者経由・被扶養者へ直送）
- ② 受診率向上の取り組みとして「コール・リコール」の導入
- ③ 受診しやすい環境…託児室（保育士駐在）を設置
- ④ 特定健診＋詳細健診（貧血検査・心電図検査・眼底検査・血清クレアチニン検査を含む）や、肺がん検診、婦人科検診（乳がん・子宮頸がん）、大腸がん検診（便潜血2日法当日持参）の集合健診を実施
- ⑤ 特定保健指導（動機づけ支援・積極的支援の初回面接）を同日実施し、特定保健指導対象者以外にミニ保健指導（情報提供）を実施
- ⑥ 健康教育：家庭の健康管理のキーパーソンである主婦（被扶養者）に生活習慣予防教育を実施し、学んだ情報を家庭内で家族に展開、特に被保険者のがんリテラシーの向上に繋げる
 - ・保健師による「がんから健康を守るための日常生活や検診の必要性」等の講義を実施
 - ・待合室での待ち時間を利用して、乳がん触診モデルにより自己検診法を学ぶ
 - ・運動指導士による「活発な身体活動はがんになるリスクが低下」を基に室内で出来る運動の講義と実技指導
 - ・管理栄養士による家族の健康も守る食生活アドバイス「細胞変異の芽を摘む」の講義と、食事でがん予防を意識した内容のモデル食を実食

- ① 集合健診・健康教育が実施しやすく集まりやすい場所を設定→ 公共交通機関を利用でき、利便性のよいホテルを想定、各組合から対象者に対し健診・検診の案内（被保険者経由・被扶養者へ直送）
- ② 受診率向上の取り組み→「コール・リコール」
- ③ 受診しやすい環境…託児室（保育士駐在）の設置



3. 主な結果・活動報告 ①

【健保連 新潟連合会の会員組合に共通する健康課題】

1. 県内のがん罹患・死亡は胃がん、肺がん、大腸がんは男女とも全国平均より高い傾向にある
2. 健（検）診に行かない被扶養者は、ヘルスリテラシー向上のチャンスがないためリテラシーは低い
3. 被扶養者の特定健診率が低いため、特定保健指導は20%に満たない

【改善策】

健診（検診）とポピュレーションアプローチのセミナーを同時実施した

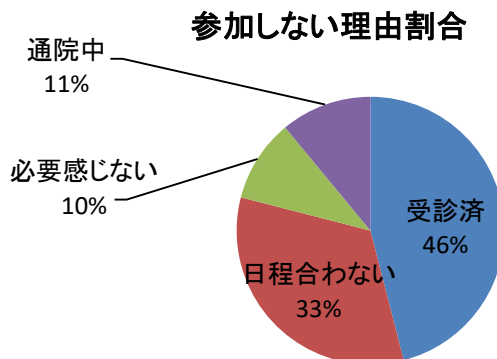
1. 【対象者数】

- ・本事業の参加を呼び掛けた対象者数（被扶養者・女性に限る）は、12 健保 403 名、「参加したい」と回答があった者は360 名（89%）、「参加しない」との回答が43 名（11%）であった。
- ・そのうち事業当日までの欠席届が18 名あり、最終的に342 名（85%）であった。
- ・参画組合による健診案内を100%実施し、全数回収できた。
- ・事業実施に向けて事業主とコラボができていない健保においては、独自に担当者と事前打ち合わせなどを実施し申し込みが100%であった。

実施率向上策 1 事業案内には参加の有無に関わらず必ず返信がほしい旨連絡、参加希望しない対象者に理由を記してもらうことにより次の事業への参考にする。案内を送信後、返信のない対象者には「コール・リコール」を取り入れ43 人増加した。

*「参加しない人」の返信理由から分かったこと

- ① 「受診済み」の回答は、パート先での受診であり
特定健診・がん検診は含まれていないことが明らかになった。
- ② 「日程が合わない」の回答は、会場ごとの実施日が少ないことが理由であった。



実施率向上策 2 子供を預ける所がなく受診できない対象者のために、保育士駐在の託児室を設置。2 か月児から3 歳児まで12 名が利用。

3. 主な結果・活動報告 ②

2. 【特定健診・特定保健指導】

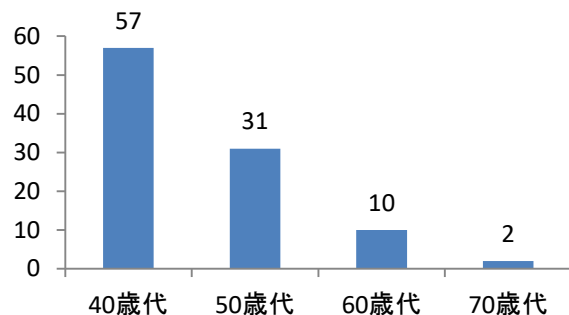
2-1. 特定健診

・受診者数 342名 受診率：85%（アウトカム指標70%）

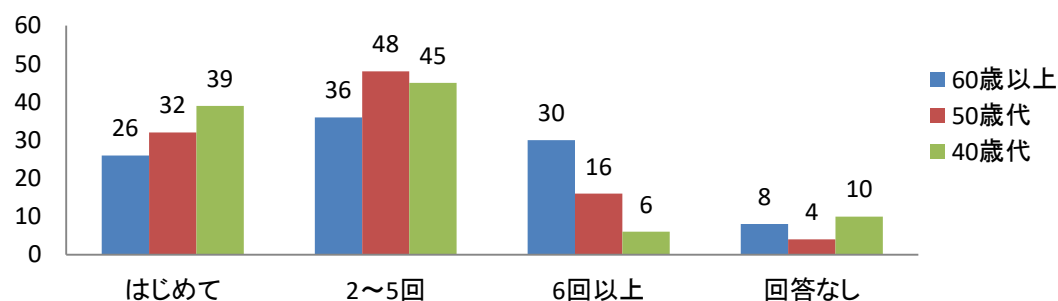
10月：5会場 12月：1会場 → 会場は利便性の良いホテル、結婚式場を利用

・詳細健診（貧血検査・心電図検査・眼底検査・クレアチニン検査）を同時に実施することで、より精度の高い健診とした

特定健診年代別受診者割合

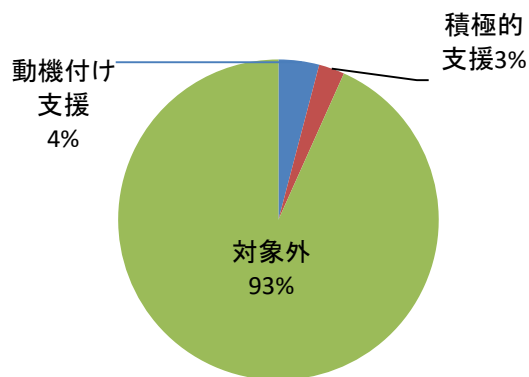


特定健診年代別受診回数割合



2-2. 特定保健指導

初回面接実施済み



特定保健指導該当者数

動機付け支援	14名
積極的支援	9名
計	23名

特定保健指導実施率100%

全員が完了した要因

・健診当日に初回面接を実施

本事業の波及効果

・40歳代が6割受診

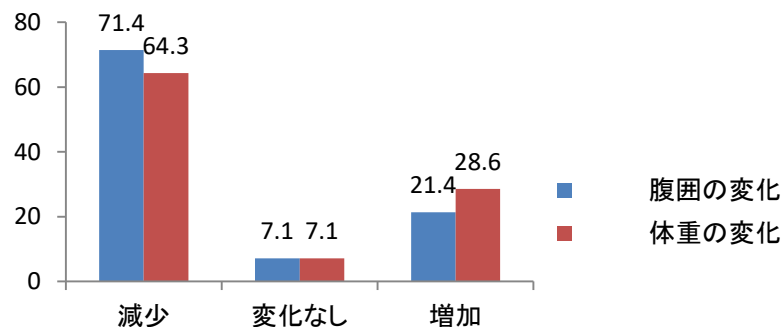
→ 次年度以降も健診を受けるようになる期待

・初めての受診が3割が「はじめて」の受診

→ 今後、特定健診を受けるきっかけになる

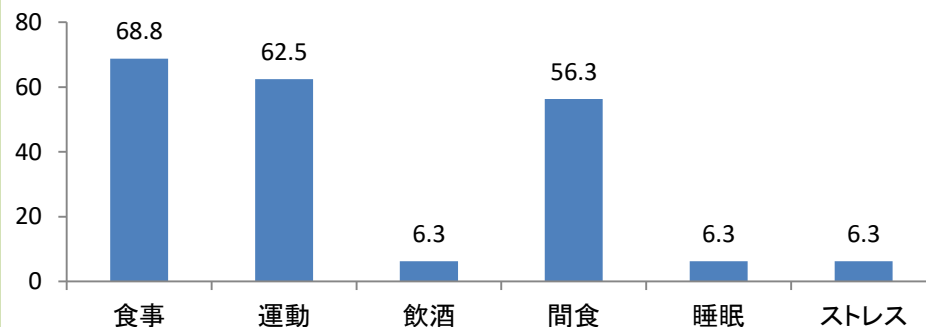
3. 主な結果・活動報告 ③

初回と評価時測定値の変化



(* 平均 腹囲 2 cm、体重 1.8 kg 減少)

日常生活で気をつけたこと:複数回答



(* 喫煙者ゼロ)

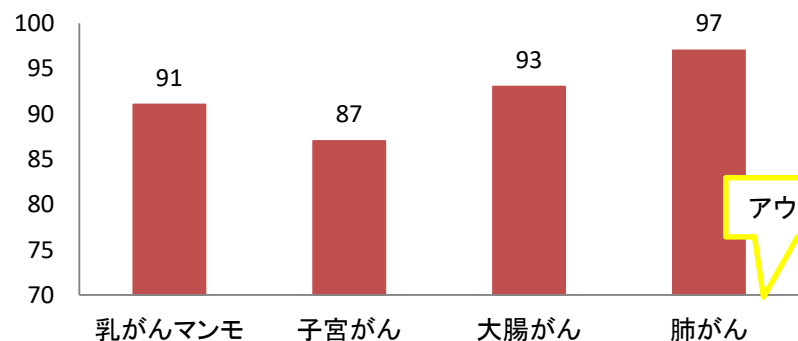
【アンケートの回答から】

- ◆ プロからのアドバイスをもらえないと、1人だけでは、やる気にならないと思った。
- ◆ 自分ではなんとなく意識しても、数値を基に適切なアドバイスしてもらったことで「頑張らないと」、と動機づけになった。
- ◆ 何が問題なのか、どのように取り組んだらよいか、わかりやすく教えてもらった。

3. 【がん検診】

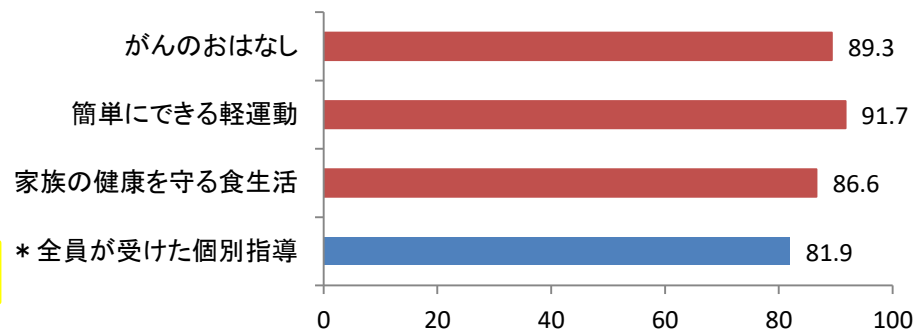
各種がん検診を特定健診と同一日に実施することにより受診率の向上を目指す。

がん検診受診率(アウトプット指標70%)



4. 【健康教育 (情報提供)】

健康教育は役立った



*「全員が受けた保健指導」とは特定保健指導対象者以外への情報提供

4. 共同事業の運営方針・留意点等

【共同事業の運営方針】

1. 検討会において、会員健保の課題を話し合い共通認識を持つ。事業を進めるに当たり共同の意味を理解し目的を共有しあう。
2. 次年度以降、本事業が保険者協議会を通じ他団体と共同で開催する場合の参考事例とする。

【留意点等】

1. コンソーシアムを組む組合は、財政的に厳しい中小規模の組合であり、被扶養者の特定健診実施率が低いなど、共通の課題を有している。共同して事業を進ことで効率化を図れるが、通常より業務量が増える。参加組合には専門職がおらず、また、職員も少ないため、健保連新潟連合会共同設置保健師が、過去の経験を生かし全体の企画及び結果のとりまとめを行った。
2. 主幹健保は「マネジメント力」と「職員体制」がコンソーシアムの運営に影響するため、この2点に留意し選定した。
3. 受託業者の選定においては、「特定健診」と「がん検診」の同日実施という事業の性質上、県内の市町村の受託実績があり、スムーズな事業の運営体制が確立していることの2点に留意した。

4. 【役割分担】

	新潟連合会	主幹健保	参加健保	新潟県労働衛生医学協会
企 画	◎	○	○	○
検 討 会	◎	◎	◎	◎
受診率向上	◎	○	◎	○
健診（検診）	○	○	○	◎
健康教育	◎	○	○	◎
契約・支払い		◎		
検診当日の運営	◎			◎
事業まとめ	◎	◎	○	○

受診率向上

新潟連合会

- ・参加してみたいと思う案内の作成。
- ・健保から受診希望者の連絡を毎日報告をもらい、一覧表に入力して健保に送信。

参加健保

- ・受診率を上げる準備として受診希望者一覧表から返信がない対象者に電話作戦、コール・リコールの準備と実施。

健診・健康教育

参加率を上げるため健保(主幹健保を含む)は特定健診、健康教育を理解し受診率が向上するよう健保独自の案内や、当日健診状況の確認を行った。

5. 事業を円滑に実施するための工夫した点・改善したほうが良い点

<工夫した点>

1. 検討委員会 … 参画組合全員が検討会に参加（理由：フリーターキングで方向性を決める、共通認識を持ちスタートする）
2. 受診率アップ … 参加してみたいと思う案内、リーフレット(A4表・裏)の作成
健診案内チラシ(全員回収) 申込み 希望しない理由を記入してもらうことにより今後の事業の参考にする
実施率向上のためメールで新潟連合会に毎日報告
連合会から参加組合一覧表に入力し返信することにより他健保と足並みをそろえる
→ (コール・リコール準備、**他健保に助けてもらう**)
3. 受けやすいインフラづくり … 会場を利便性の良いホテルにした
健診会場・健康教育会場・検診車駐車場の確保及びプライバシーの確保
託児室の設営、保育士手配
4. 検診と健康教育をセットで実施 … 一次予防と二次予防 同時に実施することで家庭でのがん教育の普及
5. 特定健診当日に特定保健指導初回面接を実施

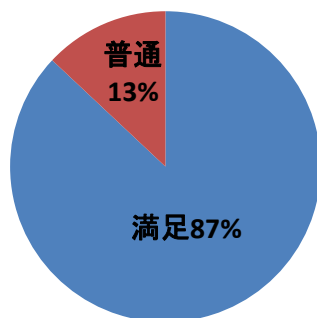
<改善点>

1. 会場ごとの日程を増やす … 被用者保険の医療保険者数拡大
被保険者と同時に被扶養者受診できる仕組みづくり
2. 検診の必要性を感じていないグループに対する対策
3. 通院中であっても特定健診を受けなければならないことを啓発
健保から対象者への発信
主治医から理解してもらう方法 … 保険者協議会等との連携

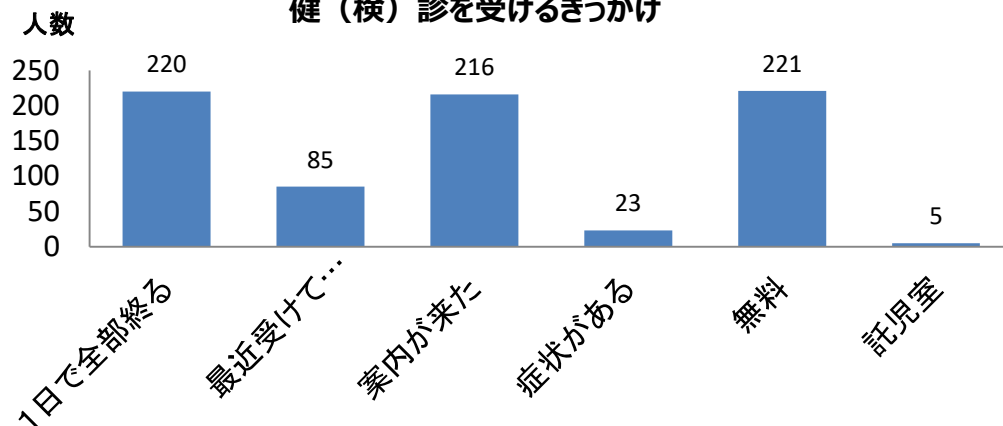
6. その他

受診後のアンケートから（回収率 99%）

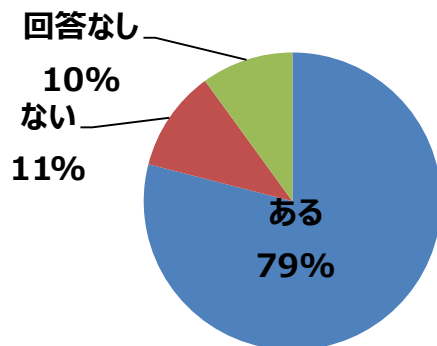
健診事業満足度



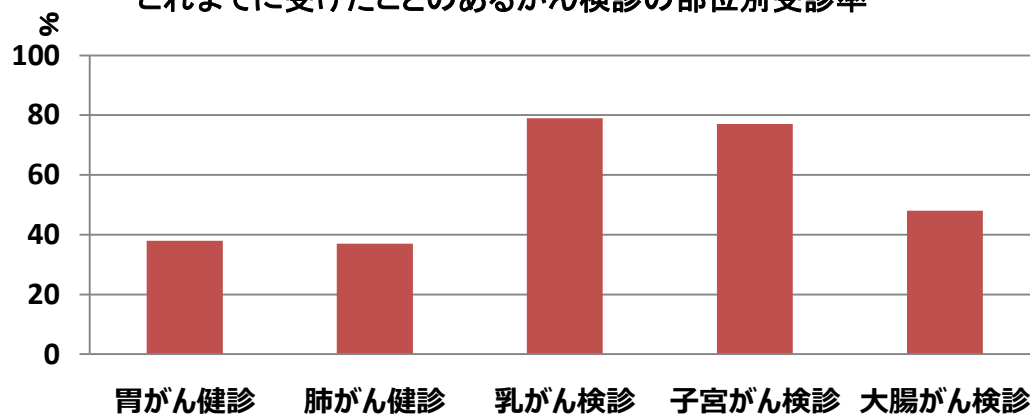
健（検）診を受けるきっかけ



がん検診の受診経験の有無について



これまでに受けたことのあるがん検診の部位別受診率



新潟県のがん罹患率・死亡率は胃がん、肺がん、大腸がんでは男女とも全国平均より高く、女性の乳がんは全国でもトップである。

約 8 割が「乳がん・子宮がんを受けたことがある」と答えている。対して胃がん、肺がん、大腸がんを受けたことがある者が5割に満たない。この検診を機会に胃がん、肺がん、大腸がん検診への関心が高まることを期待したい。

会場の様子と参加者アンケート（抜粋）

<パンフレット>



案内のパンフレットの中のマンガが気持ちを楽にしてくれた。夫を優先し自分はいつも後回しになっていると感じていた。ランチもいただけて良かった。

<会場風景>



ホテルでの健診は初めてです。暖かくきれいで快適だった。ホテルで受けるのも良い。

今まで受けたことのない健診項目があり良かった。外に並んだ検診バスには驚いた。

<健康教室の様子> がんについて・運動指導・栄養指導



今日学んだことを普段からの生活に役立てたいと思う。

健康診断といろいろなお話、体操、食事がセットになってとても良かった。

娘がいるので、がん検診の大切さを教えます。

保健師や栄養士の話がとてもためになった。時間が短い。もっと聞きたい。

一度に健診を受けられて良かった。主婦でパートだとこういう機会がないと何十年も受けないまま過ぎてしまう。引き続き活動してほしい。

<教育食>



<託児室>

全部終わるまで保育してもらい助かった。気にせず受診できて良かった。孫連れでしたが大変ありがたかった。



共同保健事業に参加した健保組合からの感想

共同事業を実施するメリットについて

- 効果的な保健事業のノウハウを共有できた。
- 他健保と健康課題が共有できた。
- 健保ではなかなか広告費に費用計上ができなく共同で親しみやすい案内文書が効果的であった。
- 効果的効率的な保健事業を実施できた。
- 健保組合の存在価値と被扶養者へ健康保険組合を知ってもらえたことなど有効である。
- 自組合だけでは人数が少なく実施できないが、複数で行うことにより参加人数が多くなり実施することができた。
- 健診は、健診機関で提示する人数を設けているため、過疎地での実施は難しい。そこで健保組合が横の連携で共同実施することが望ましいと思う。
- 被保険者不在の家庭内健康管理のキーパーソンとなる被扶養者の健診受診率が85%、特定保健指導率100%となり、さらにがん予防など健康教育も受けてもらったことでセルフケアと家族の健康増進を実践する力がつき、被保険者のヘルスリテラシー向上に寄与できた可能性がある。

反省点及び改善点

- 被扶養者の特定健診受診率の向上が主目的であり、案内方法の中に特定保健指導に該当した場合は受諾必須とする工夫が必要だと感じた。
- 「不参加の理由」でパート受診している扶養者の勤務実態を把握できていなかった。
- 参加要請を事業所にまかせっきりにしたことにより見込人数を割り込んでしまった。

共同事業が円滑に進むように工夫したこと

- 事業主へ協働をはたらきかけ、担当者と事前打ち合わせを実施した。
- 特定健診未受診と思われる候補者宛に、事業所の総務担当役職者ラインを活用して案内したことで多く参加してもらえた。
- 近くの会場で受けやすいように被扶養者の住所を調べ、案内文を送った。
- 未受診者を把握しているので案内を直送した。
- 案内後、無回答者への督促（コール・リコール）を実施。
- 受診勧奨に昨年受診者の声を配信。申込書に参加しない理由の記入個所を設けたことにより不参加事由を把握できた。

参考になること（参加者の利点）

- 特定健診だけでなく、同時に各種がん検診や保健指導を同じ所、同じ日に受ける利便性に魅力があると感じられる。
- 健診は、実施する人数の最低人数を健診機関で設けているため、過疎地での実施は難しい。そこで健保組合が横の連携で共同実施することが望ましいと思う。
- 被扶養者が集まりやすくプライバシーが守られる環境づくり。